

第18回腫瘍病理セミナー

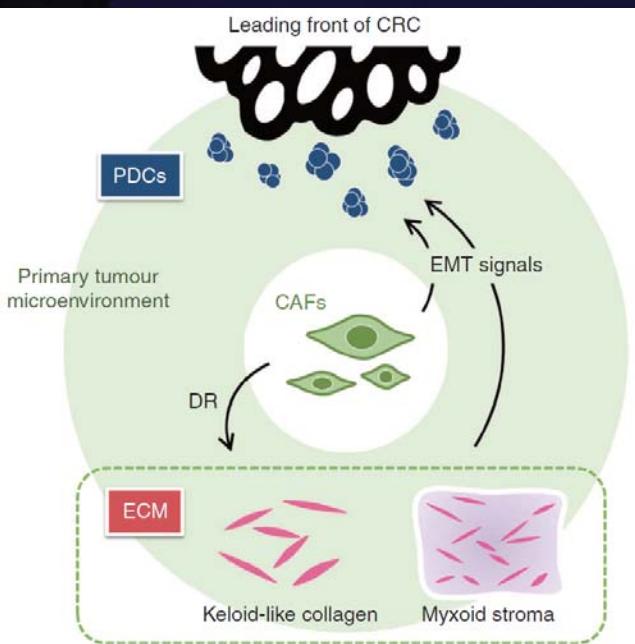
北陸がんプロFD 講演会

防衛医科大学校 外科学講座 准教授

上野秀樹

大腸癌の新しい病理学的予後指標 —規約改定の背景と今後の展望

2013年7月に刊行された大腸癌取扱い規約第8版の病理部分の改訂は、大腸癌研究会で行われた複数の多施設共同研究に基づいています。本セミナーでは今回の規約改定に携わった立場から、改訂の根拠と臨床的な意義を紹介して頂きます。



続いて、期待されている新しい予後因子、特に低分化胞巣や線維性癌間質に焦点を当てて今後の展望についても語って頂きます。

Prognostic impact of histological categorisation of epithelial-mesenchymal transition in colorectal cancer. British J Cancer, 2014

Site-specific Tumor Grading System in Colorectal Cancer: Multicenter Pathological Review of the Value of Quantifying Poorly Differentiated Clusters. Am J Surg Pathol., 2014

Characterization of perineural invasion as a component of colorectal cancer staging. Am J Surg Pathol., 2013

略歴：平成2年防衛医科大学校卒業、平成13年医学博士を取得。その間、自衛隊中央病院外科医員、英国 St Marks and Academic Institute, Department of Pathology 留学、陸上自衛隊部隊医学実験隊研究員。

平成15年から現所属、平成26年から現職。

日時：平成27年9月14日（月）
17時から
金沢医科大学病院
病院新館12階 特別会議室

